

がん免疫細胞治療学(消化器がん)

研究可能テーマ

研究可能テーマ	研究指導者	受け入れ可能院生数
(1)自己腫瘍抽出抗原パルス樹状細胞ワクチン療法の臨床研究 * 癌患者よりLeukapheresisにて単核細胞を採取し、樹状細胞を分離培養した後に、自己腫瘍抽出抗原を取り込ませて樹状細胞ワクチンを作成する。患者皮下に樹状細胞ワクチンを投与した前後における免疫学的応答を患者末梢血リンパ球の自己腫瘍に対する細胞障害活性 ( $^{51}\text{Cr}$ 遊離試験)、サイトカイン産生能測定(ELISA)、自己腫瘍抗原特異的CTL解析 (ELISPOT, Tetramer assay)にて解析する。	有賀大学院教授	1
(2)合成癌抗原ペプチドパルス樹状細胞ワクチン療法の臨床研究 * 癌患者よりLeukapheresisにて単核細胞を採取し、樹状細胞を分離培養した後に、合成癌抗原ペプチドを取り込ませて樹状細胞ワクチンを作成する。患者皮下に樹状細胞ワクチンを投与した前後における免疫学的応答を患者末梢血リンパ球の自己腫瘍に対する細胞障害活性 ( $^{51}\text{Cr}$ 遊離試験)、サイトカイン産生能測定(ELISA)、自己腫瘍抗原特異的CTL解析 (ELISPOT, Tetramer assay)にて解析する。	有賀大学院教授	1
(3)腫瘍内自己樹状細胞局注療法の臨床研究 * 癌患者よりLeukapheresisにて単核細胞を採取し、樹状細胞を分離培養した後に、腫瘍内に樹状細胞を局注し、その前後における免疫学的応答を患者末梢血リンパ球の自己腫瘍に対する細胞障害活性 ( $^{51}\text{Cr}$ 遊離試験)、サイトカイン産生能測定(ELISA)、自己腫瘍抗原特異的CTL解析(ELISPOT, Tetramer assay)にて解析する。	有賀大学院教授	1
(4)細胞治療における細胞免疫検査法の開発 各ステージの癌患者や免疫療法、化学療法前後での免疫学的変化を患者末梢血リンパ球の細胞表面マーカー解析(FACS)、細胞障害活性 ( $^{51}\text{Cr}$ 遊離試験)、サイトカイン産生能測定(ELISA)、自己腫瘍抗原特異的CTL解析(ELISPOT, Tetramer assay)にて解析し、細胞治療に有効な指標となる検査法を開発する。	有賀大学院教授	1
(5)癌ペプチドワクチン療法の臨床研究 * 癌患者より採取された癌細胞に発現する抗原を同定し、人工的に合成したペプチドワクチンを投与する臨床研究を行う。	有賀大学院教授	1
(6)新規細胞活性化法の開発 T細胞、NK細胞、NK細胞などの効果細胞を患者末梢血単核球から誘導し、患者ごとの腫瘍抗原発現、癌細胞表面分子発現状況(HLA class I, IIなど)、腫瘍局在部位等により治療に用いる効果細胞を選択するテーラーメイド式免疫細胞治療の開発を試みる。各効果細胞の免疫学的応答と腫瘍細胞表面分子の関係を細胞表面マーカー解析(FACS)、細胞障害活性 ( $^{51}\text{Cr}$ 遊離試験)、サイトカイン産生能測定(ELISA)、自己腫瘍抗原特異的CTL解析(ELISPOT, Tetramer assay)にて解析する。	有賀大学院教授	1
(7)医療用クローズドセルプロセッシング技術の開発 GMPに準拠した細胞調整法をもとに、現在の細胞治療用の細胞調整を簡便かつ安全なクローズドシステムで行えるよう、新規にシステム開発を行い、その有用性、安全性を検証する。	有賀大学院教授	1
(8)FACT-BRMを用いた癌免疫細胞治療における癌患者のQOL改善効果評価 免疫細胞治療を受けた癌患者のQOL改善効果をFACT-BRMを用いて解析する。	有賀大学院教授	1

\* : 医師免許取得者 対象